

碧い海と緑の大地を守るために
—私達の力を合わせ、できることから始めよう！—

AMLS（アムレス）協議会
会長 葛西 恭子

1. 地域の概況

当地域は、本州最北端の下北半島のまさかり部分にあるむつ市を始めとする8市町村からなっており、いずれの市町村も海に面した漁業の盛んな地域である。

漁業協同組合は1市町村に数漁協を有するところもあることから、地域全体では20の沿海漁協があり、組合員は5,683人、うち女性部を有する漁協は12（当協議会加入は10）ある。（図-1）

また、日本3大霊場の1つ恐山や、仏ヶ浦、尻屋崎など、風光明媚な多くの観光地を抱えており、地域全体が国定公園に指定されている。

平成12年にNHKの朝の連続テレビ小説「私の青空」が放送されたことから、以前にも増して多くの観光客が訪れている。

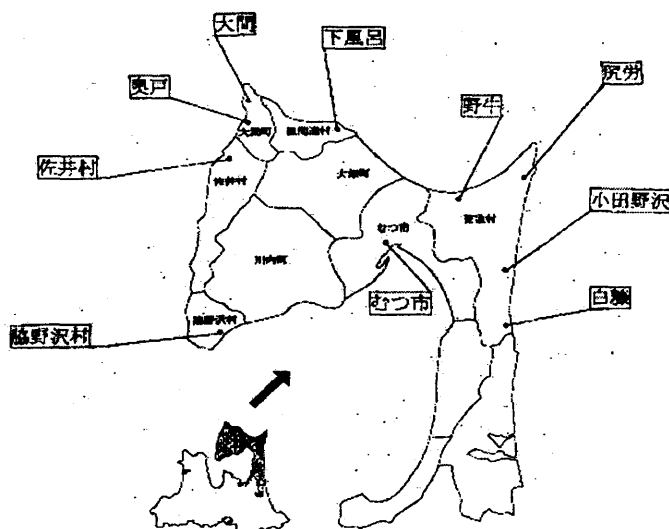


図-1 位置図

2. 漁業の概況

下北半島は、太平洋・津軽海峡・陸奥湾の3つの海域に面しており、太平洋・津軽海峡海域ではいかつり漁業・定置網漁業・刺網漁業・一本釣り漁業・採貝草が、陸奥湾海域ではほたてがい養殖業・刺網漁業が主体である。平成12年の漁獲実績は32,018ト、金額は109億5,681万円となっている。また、川内川、大畑川、老部川（東通村）では、さけのふ化放流等の増殖事業が行われ、平成12年度は3河川合計で約2,700万尾の稚魚が放流されている。

3. 協議会の組織と運営

当協議会は、平成4年3月に下北地域の14漁協婦人部約1,000名で、県内初の広域漁協女性組織として発足し、平成6年3月に、名称を下北地域漁協婦人部活動推進協議会からAMLS（アクティブ・マリン・レディス・下北の略。下北の行動する海の女性達の意味）協議会と改めた。現在は10漁協女性部で構成され、会員数は約870名である。役員会は各女性部長で構成し、会長1名、副会長3名、会計1名、書記1名、監事2名、幹事若干名を選出している。（図-2）活動資金は、年会費及び女性部のある各漁協からの助成金から成って

いる。

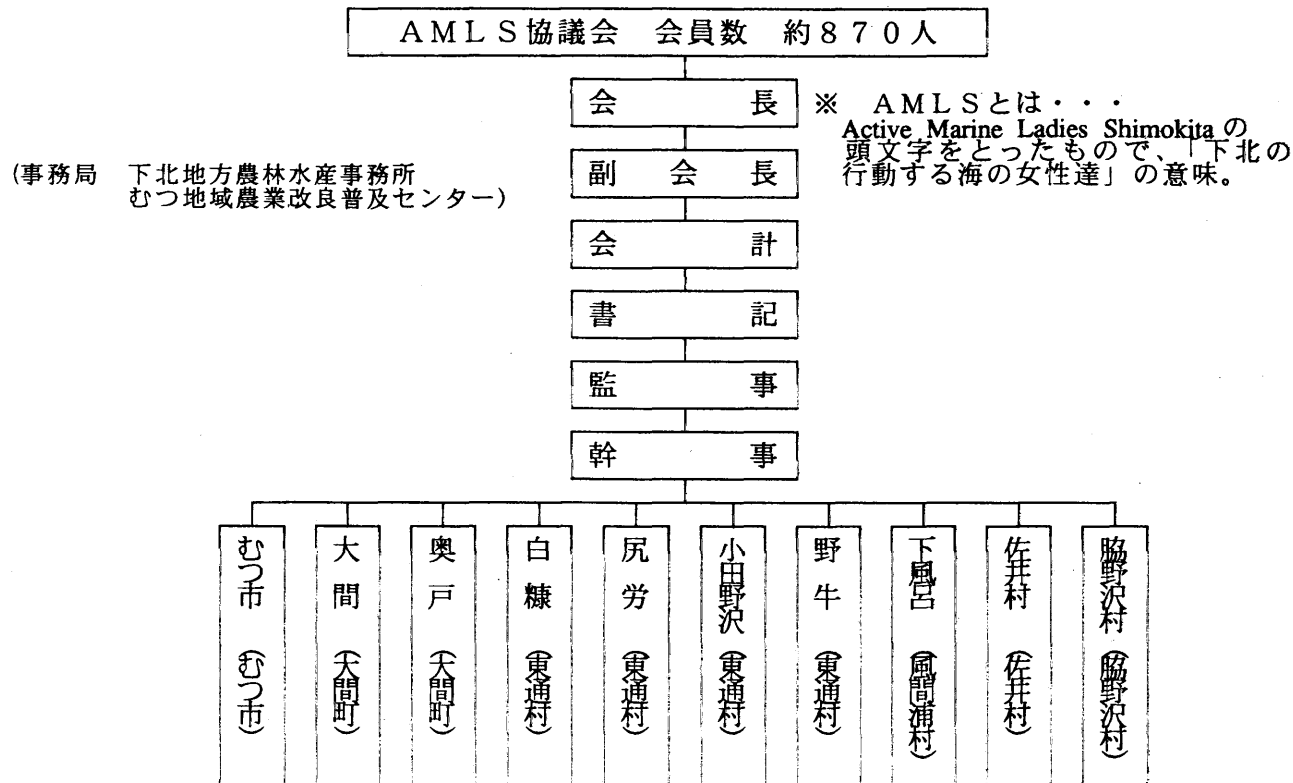


図-2 組織図

4. 研究・実践活動課題選定の動機

1) AMLS協議会結成のきっかけ

下北半島も年々、生活排水や山林伐採などに伴う濁水などの影響で海や川の汚れが目立ち始めていた。特に生活排水においては上下水道が整備されていないこともあって直接河川へ流れ込んでいる現状にある。こうした海の汚染が私達の漁家生活に多大な影響を与え、下北の自然までも脅かしているようにも思われ、漁協女性部としても何かできることはないかという思いがそれぞれの女性部員達の間にも芽生えた。そこで下北地域の自然環境を守るとともに、漁業・漁村の振興を図るため、農業改良普及センターの助言のもと、協議会を結成した。

2) 「海を守る運動」の始まり

「起こそう、女性の力で地域に新しい波を」を合い言葉に、結成以来、活動目標を「組織の力で築こう、女性の地位向上と下北のゆたかな漁村」、活動テーマを「碧い海と緑の大地を守るために」と定め、海を守るさまざまな活動を展開してきた。

5. 研究・実践活動状況及び効果

1) 活動推進のための研修会や交流会の開催

平成4年度の「合成洗剤の追放、生命のふるさと海を汚染から守ろう」と題した活動交流会で、海洋汚染を防ぐため、「わかしお石けん」の使用促進の取組が必要との提案が会員から出され、今後の活動の目標となった。

平成6年度は、わかしお石けんの特性理解と使用促進のため、製造会社から講師を招いて研修会を開いた。会員からは、「匂いが悪く溶けにくい、ぬるぬるする」など苦情が出されたが、正しい使い方の指導を受け、石けん使用を会員間で約束し合った。

平成8年度の「下北の森と川と海を考えるとよい」では、北海道指導漁業協同組合環境部長の柳沼氏を講師に迎え、魚付き林や森林による水の浄化作用などの話を聞き、植林の必要性に目覚め、これが森と川と海をつなぐ活動への契機となった。

また、農林水産業団体や一般消費者を加えたパネルディスカッションでは、環境保全活動を進めるには消費者など地域住民との合意形成が欠かせないことを強く感じた。

2) 「わかしお石けん」及び「アクリルたわし」の普及推進

平成8年度の研修会で会員が紹介したアクリルたわしが各女性部に普及し、平成10年度の「豊かな海づくり大会」で初めて消費者に対してPR販売した。以来、県漁業士会むつ支部会とむつ下北地区指導農業士会主催の「豊漁・豊作祈願祭」に参加し、わかしお石けんやアクリルたわしを販売している。平成12年度からは、汚れ落としの実演販売も行った結果、わかしお石けんやアクリルたわしに対する消費者の理解が深まった。

平成11年度には、あらゆる石けんの特性を知るために、各女性部で石けんメーカー数社の成分の異なる石けんで汚れ落ち・すすぎ等を試し、その差を比較した。これによってわかしお石けんの良さを再確認することができ、現在のわかしお石けん普及推進に大いに役立っている。

平成12年度には、AMLS協議会の代表が合成洗剤追放全国集会に参加し、わかしお石けんの普及推進を強く訴えた。

3) 海岸美化運動の推進

海岸美化に向けた具体的な活動として、以下の活動を実践してきた。

- ①標語の活用：平成4年度に会員から海岸美化を推進するための標語を募集し、その中の「碧い海 守るもころすもわが心」「広い海守って行くのはあなたです」など5つの標語を、看板やポスターとして活用し、地域にも海岸美化を呼びかけた。
- ②各漁協前のミニ花壇づくり：平成12年度には女性部のある各漁協に、日頃の感謝と海岸美化の一助となればとAMLSの名前が入ったプランターと花苗を配布し、地域の人達から喜ばれている。花苗配布は今後も継続していく予定である。
- ③各女性部による海岸清掃：10漁協女性部ごとに長い間継続されている。
- ④漁船用空缶入れの普及：県内漁協婦人部が実施している漁船用空缶入れの取組をヒントに、平成13年度よりたこ網やハンガー等身近な材料で安価に作る工夫をし、普及を図っている。下風呂女性部では会員で空き缶入れを作成し、地元動力船組合員53名に贈呈した。

4) 森と川と海をつなぐ活動

これまで、各漁協女性部が漁協や市町村と連携し実施してきた森に樹を植える運動であるが、結成10周年を記念し、平成13年5月に多くの会員が参加して、川内町で約300本のブナとヒバを植樹した。

5) その他の特徴ある活動

- ①海難遺児への寄付：イベントでのアクリルたわしの売上は、毎年（財）漁船海難遺児育英会に寄付している。また、平成13年6月9日にむつ市で開催した10周年記念チャリテ

イショーでは、各女性部による歌や踊りを一般に披露し、集まった募金を全額寄付した。
②救命胴衣の着用推進：海難事故防止のため、平成 13 年度より研修会や会議のつど、救命胴衣着用の声掛けをし、今年度からの新たな課題として会員への啓発活動を始めた。

6. 波及効果

1) 地域を巻き込んだ活動へ

このような研修等を重ねた結果、生活の場である海は自分達で守らなければという意識が会員内外に高まり、石けん使用者は確実に増加している。

下風呂地域では、旅館の女将さん達を対象に、旅館から出る廃油を使った石けんづくりや、わかしお石けんとアクリルたわしを使った汚れ落とし実演をしたところ、海洋汚染防止の意識を喚起させ、共有できるようになった。その結果、その後も旅館から出る廃油を捨てずに石けんづくりを行い、使用するようになった。また、石けんやアクリルたわしを使用する旅館も増え、地域のコンビニエンスストアでも、一番目立つレジの横に陳列・販売してくれるようになった。

2) 協議会活動の良さが県内漁協女性部へ波及

環境活動は、1 集団でできることは少なく、海に面した複数の団体の連携が大切である。当協議会の活動をきっかけに、他地域でも広域での課題づくりをすすめるところも見られるようになった。

3) 地域女性のリーダーとして

このような活動が認められ、平成 10 年度「青森県豊かな海づくり大会」で県知事賞を、また、平成 12 年度同大会で県水産大賞を受賞した。

また、昨年度は当協議会員の中から、青森県環境審議委員や、県内初の女性の海区漁業調整委員が任命され、今年度は県で初めての女性漁業士も 2 名誕生する等、女性の社会参画に大きな役割を果たしている。

7. 今後の課題

これまでの活動を基に、さらに漁村や漁業の振興に向け、農・林業者と手を結びながら、次のことを考えていきたい。

1) 海を守る環境づくり活動の推進

今後とも「自分達の海は自分達で守る」ことをお互いに意識しながら、わかしお石けんやアクリルたわしの普及、廃油を利用した石けんづくりなど、海を守る活動をより実践させていく。

2) 他産業者・他団体との連携による環境づくり

「森と川と海のつながり」を念頭に置き、他産業者・他団体と連携し、消費者の理解を深めるための交流活動へと輪を広げる。

表-1 AMLS協議会の主な活動

活動内容		年度(平成)											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
環境保全活動	環境美化運動に関する標語募集	■											
	標語活用		■										
	・看板設置			■									
	・漁協広報に掲載				■								
	・ポスター作成・配布					■							
漁港周辺清掃(各女性部)		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
わかしお石けんの普及推進		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
アクリルたわしの普及推進								■	■	■	■	■	
各漁協前のミニ花壇づくり										■	■	■	
研修会等	活動強化研修会	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	・地域活性化・環境保全に関する講演等	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	活動交流会	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
他団体との連携	・他産業との交流、パネルディスカッション等											■	
	結成10周年記念行事											■	
海難遺児への寄付	J A女性部・生活改善グループとの交流会		■	■	■	■	■						
	むつ湾アクアフレッシュ協議会参加							■	■	■	■	■	
生産者による豊漁・豊作祈願祭参加	・わかしお石けんPR販売							■	■	■	■	■	
	・アクリルたわしのPR販売								■	■	■	■	
海難遺児への寄付	・アクリルたわし売上を寄付								■	■	■	■	

表-2 平成13年度の年間行事

1 結成10周年記念行事

月日	事業内容	場所
5月16日	結成10周年記念植樹会	川内町
6月9日	AMLS協議会10周年記念式典 AMLS10周年記念海難遺児募金チャリティショー	下北文化会館 (むつ市)

2 活動交流会

月日	事業内容	場所
10月4日	活動交流会 ①講話「漁家が行う特産品の開発と販売活動に期待する」 下北ブランド研究開発センター 所長 原口健二 ②施設概要説明・見学(下北ブランド研究開発センター) ③事例紹介「身近にあるもので工夫した空缶入れ」 (AMLS協議会長) ④加工品評価・相談会(下北ブランド研究開発センター)	下北ブランド研究開発センター (大畑町)

3 広域活動

月 日	事 業 内 容	場 所
6月18、19日	広域活動（各市町村・漁協訪問、漁協女性部の組織化促進）	各市町村・漁協

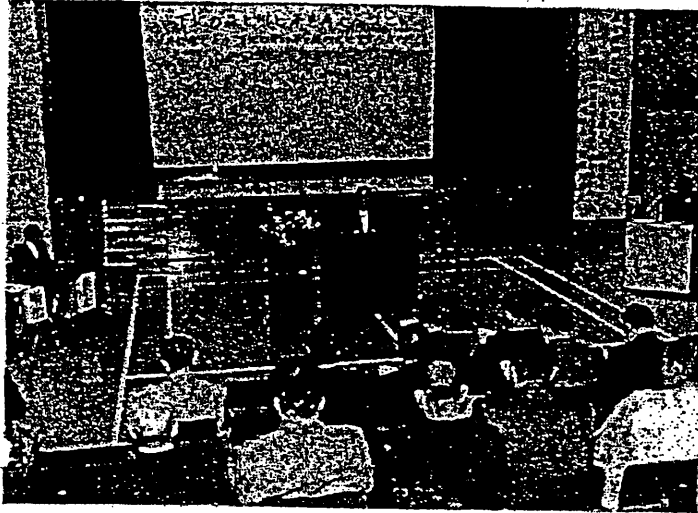
4 役員会及び実行委員会

月 日	事 業 内 容	場 所
4月18日	第1回役員会、結成10周年記念行事実行委員会	むつ市立図書館
5月10日	結成10周年記念事業第2回実行委員会	むつ合同庁舎
6月4日	結成10周年記念事業第3回実行委員会	むつ合同庁舎
8月22日	第2回役員会	むつ合同庁舎

5 関係機関との連携活動

月 日	会 議 名 等	主 催	場 所	出席者
6月14日	下北ブランド研究開発センター開所式	下北ブランド研究開発センター	大畑町民体育館（大畑町）	葛西会長
7月13日	海難遺児への寄付（漁船海難遺児を励ます青森県地方協議会へ）	—	県水産ビル（青森市）	葛西会長、熊谷幹事
7月26日	あおもり農山漁村女性会議・活動事例発表（～森と川と海をつなぐ女性活動を進めよう～）	県農林水産政策課	青森厚生年金会館（青森市）	葛西会長
9月16日	「青森県に男女共同参画社会をつくる県民運動推進協議会」設立総会	同県民運動推進協議会	アピオあおもり（青森市）	葛西会長
10月27日	第8回生産者による豊漁・豊作祈願祭	県漁業士会むつ支部会、むつ下北地区指導農業士会	まさかりプラザ前イベント広場（むつ市）	12名参加
2月7日	むつ湾アクアフレッシュ協議会	県環境生活部	ウエディングプラザアラスカ（青森市）	葛西会長

むつで「下北の森と川と海を考えるつどい」



AMLS協議会

地域一体の環境保全へ

初企画に150人、意見交換

むつ下北地区の漁協婦人部で組織するAMLS協議会(熊谷ヒサ子会長)は二十六日、むつ市で「下北の森と川と海を考えるつどい」を開いた。農漁業者の命である海と川、緑の大地を環境汚染から守るため、関係団体に広く参加を呼び掛け実現したもので、講演やパネルディスカッションを通して下北の自然保護の重要性について学んだ。

AMLSは「アクト、プ・マリン・レディス・下北」(活動する下北の海の女性たち)の略。平成四年に下北地域漁協婦人部活動推進協議会として発足、七月三日にAMLS協議会に名称変更した。下北の十一の漁協婦人部が参加し、会員は約一千人に達する。

これまで無リン洗剤の普及、合成洗剤の適放やゴミゼロ運動を推進。最近ではJ A天間林、J A下北婦人部との交流会を開催し、女性たちが養殖の秘を絶えて農漁村の活性化や環境保護活動の在り方について情報交換してきた。

「考えるつどい」はこれらの活動をさらに発展させるため、地域が一体となった積極的な環境保全運動を進めようとする、今回初めての企画が

実施にむけ、むつ市公民館には、会場、農協、消費者団体の女性や市町村、営林署などの関係者が百五十人余りが出席。

まずにむつ市営林の植林活動を巡り、北海道指導漁業協同組合連合会の柳沼隆彦さんが、「森と田畑を結び、海をつなぐ」と題して魚を産む」と題し基調講演。

パネルディスカッションでは農業、林業、漁業の代表者、一般消費者、漁協婦人部代表者が意見交換した。

人団体の関係者がそれぞれ立場から環境保全の在り方について発言、活発に

